Bulletion of Kagoshima
Prefectural Archaeological Center

# From JOMON NO MORI

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

## No. 10　CONTENTS

## 第10号


The spread at ritsuryo system in Ancient Satsuma province, Osumi province, and Tane province
-Analysis of archaeology survey result-
Kawaguchi　Masayuki

Ground construction and occlusion method of wood in Tachionobori underground corridor-style burial chamber
Shinichiro Fujishima

The structure of the pit dwelling of Yayoi period in Kagoshima Prefecture Osumi Peninsula
Tatumi Yubazaki

About red pigments in the underground corridor-style burial chamber type grave ～From consideration in Tationobori Site～
Takeyasu Masayuki

古代の薩摩・大隅国，多禰嶋における律令制度の普及
－考古学の調査成果から－
川口 雅之

立小野堀地下式横穴墓群における地表構造及び木材閉塞方法
藤島　伸一郎

鹿児島県大隅半島における弥生時代中期の
竪穴住居跡の平面構造について
湯場崎　辰巳

地下式横穴墓の赤色顔料について
－立小野堀遺跡の検討をとおして－
武安　雅之


Annual of Kagoshima Prefectual Archaeological Center of the 28th year in Heisei

平成28年度　年報


Kagoshima Prefectural Archaeological Center
March　2018

鹿児島県立埋蔵文化財センター
2018.03

# 『縄文の森から』第１０号　　目　次

古代の薩摩・大隅国，多禰嶋における律令制度の普及　－考古学の調査成果から－

川口　雅之　　・・・・　１

立小野堀地下式横穴墓群における地表構造及び木材閉塞方法

藤島　伸一郎　　・・・・１９

鹿児島県大隅半島における弥生時代中期の竪穴住居跡の平面構造について

湯場崎　辰巳　・・・・３５

地下式横穴墓の赤色顔料について　～立小野堀遺跡の検討をとおして～

武安　雅之　　・・・・４９

平成２８年度年報　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７

# 鹿児島県大隅半島における弥生時代中期の竪穴住居跡の平面構造について

湯場﨑　辰巳

The structure of the pit dwelling of Yayoi period in Kagoshima Prefecture Osumi Peninsula

Tatumi Yubazaki

**要旨**

大隅半島における弥生時代中期の竪穴住居跡を集成した結果，方形竪穴住居跡は中心に 2 本柱の主柱穴をもち，南側に土坑が付帯し，北・東西にベッド状遺構又は張出が付くタイプが多く，円形竪穴住居跡の約半数は花弁形を呈する住居跡であることが明らかになった。

また，方形・円形の竪穴住居跡の変遷を考察し，大隅半島ではベット状遺構は，少なくとも入来Ⅱ式土器の時期から出現し，張出は山ノロⅡ式土器の時期に出現することが分かった。

**キーワード**　大隅半島　弥生時代中期　竪穴住居跡　花弁形住居　方形　円形　ベッド状遺構

## 1　はじめに

筆者は，平成 26 年・27 年に行われた永吉天神段遺跡の調査において，弥生時代の約 40 基の竪穴住居跡調査に参加する機会があったが，各遺跡の報告書以外に弥生時代中期の住居構造を類推する資料が少なく，今後の調査に生かすためにも,それらをまとめる必要性を感じた。

## 2　研究略史

鹿児島県下における弥生時代竪穴住居跡に関する研究は，宮本長二郎氏の研究がある（宮本 1985)。宮本氏は，王子遺跡を含めて，九州全体の 650 軒におよぶ竪穴住居跡の分析を試みている。中期末以降，竪穴住居跡の平面形が円形主流から方形主流へと変化しており，中大型の円形竪穴住居跡の急減は，それに変わるものとして，掘立柱建物跡の増加が要因と指摘している。また，花弁形住居は，中期末葉以降の時期に九州南部に地方的特色を示すものとしている。また，平面形を次の３つに分類している。

A：　前･中期に多い，大型の円形竪穴住居で，主柱は４・６・８本と面積に比例して多くなり，壁面に並行して円形に配置するもの

B：　弥生時代全期を通してある，方形無主柱・方形２本主柱と少数見られる１本主柱形式

C：　弥生時代全期に渡って存在する方形４本主柱形式の中央住居。

この分類を基に，上屋構造の考察を行い，すべての形式で，柱の配置から寄棟造りに復元している。その他，周溝や炉・中央ピット・貯蔵穴・建替の考察も行っている。

中摩浩太郎氏は，鹿児島県下の弥生時代の竪穴住居跡について，集成を行い分析を行っている（中摩 1998)。まず柱の配置から,「中心軸採用型」「方形枠採用型」「壁帯主柱型」「１主柱型」「無主柱」と大きく分類し，さらに竪穴の特徴と各タイプを対比して，以下のような細分類を行っている。

Ⅰ：　中心軸採用型
　　ⅠA　単純方形竪穴
　　ⅠB　張出付方形竪穴
Ⅱ：　平行枠主体型
　　ⅡA　円形基調竪穴
　　ⅡB　方形基調竪穴
Ⅲ：　壁帯主体型
Ⅳ：　１主柱型
Ⅴ：　無主柱型

この細分類を基に，各類型の時間軸における動態や空間分布の検討を行っている。さらに，土器様式圏の分布との関連を見いだし，薩摩半島西部と薩摩半島東岸・大隅半島の地域集団のアイデンティティーや動態まで考察している。

新東晃一氏は中ノ原遺跡の方形竪穴住居の検討を通じて，方形張出付住居（王子型住居）も，方形竪穴住居の建設技法での延長で解釈できるとしている（新東 1989)。その他，奄美諸島における弥生時代相当期住居跡の研究（堂込 1995）や遺跡数や遺構数の動向の分析から，南九州弥生・古墳時代の人口変動を検討などがある（中村 2006)。

表1　鹿児島県弥生時代竪穴住居跡検出遺跡一覧

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 地形 | 時代 | 住居軒数 | 掘立柱建物棟数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 市ノ原（第4地点） | 日置市東市来町湯田・いちき串木野市大里 | 台地 | 弥生前期 | 3 | | 竪穴状遺構（松菊里タイプ含む） |
| 2 | 六ツ坪 | 日置市日吉町吉利字六ツ坪 | 小丘陵 | 弥生前期 | 1 | | （松菊里タイプ含む） |
| 3 | 諏訪脇 | 南さつま市金峰町大野字諏訪脇 | 台地 | 弥生前期 | 1 | | 竪穴状遺構，高橋式甕・壺 |
| 4 | 桜ヶ丘 | 鹿児島市宇宿8丁目 | 台地 | 弥生前期 | 2 | | 全3軒中2軒（松菊里タイプ含む）・1b号・2号住居・高橋式 |
| 5 | 魚見ヶ原 | 鹿児島市魚見町 | 台地 | 弥生前期 | 3 | | 前期3（松菊里タイプ含む）・高橋式 |
| 6 | 高橋貝塚 | 南さつま市金峰町高橋 | 台地 | 弥生前期 | 2 | | 竪穴状遺構 |
| 7 | 馬塚松 | 南さつま市金峰町大野字馬塚松 | 台地 | 弥生前期 | | 1 | 2間×2間の総柱・礎板使用か・高橋式 |
| 8 | 敷領 | 指宿市十町字敷領 | 扇状地 | 弥生中期 | 1 | | 壺形土器片出土・床面に焼土あり |
| 9 | 上野原（2～7地点） | 霧島市国分川内字田吹・鍋迫・堂ヶ尾・駒迫・十文字 | 台地 | 弥生中期 | 2 | | 1軒は磨鏃・1軒は鉄族出土・1軒炉あり |
| 10 | 町田堀 | 鹿屋市串良町細山田 | 台地 | 弥生中期 | 3 | | 4号住居14C年代値2,135±20年B.P，5号住居14C年代値2,115年±20年B.P |
| 11 | 下堀 | 曽於郡大崎町持留字岡別府 | 台地 | 弥生中期 | 7 | 5 | 山ノ口Ⅰ・Ⅱ式 |
| 12 | 本村 | 志布志市有明町伊崎田字大迫 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 入来Ⅱ式～山ノ口Ⅰ式？花弁状 |
| 13 | 桜谷 | 南さつま市金峰町大野 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 入来Ⅰ式 |
| 14 | 馬塚松 | 南さつま市金峰町大野字馬塚松 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 入来Ⅰ式 |
| 15 | 桜ヶ丘 | 鹿児島市宇宿8丁目 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 全3軒中1軒・3号・入来Ⅱ式 |
| 16 | 市ノ原（第3地点） | 日置市東市来町湯田字上市ノ原・下市ノ原・瀬戸ノ口 | 台地 | 弥生中期 | 4 | | 入来Ⅱ式・須玖式・黒髪式 |
| 17 | 魚見ヶ原 | 鹿児島市魚見町 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 北麓式 |
| 18 | 水の谷 | 鹿屋市上祓川町字水の谷 | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 入来Ⅱ式 |
| 19 | 上野原（2～7地点） | 霧島市国分川内字田吹・鍋迫・堂ヶ尾・駒迫・十文字 | 台地 | 弥生中期 | 2 | | 北麓式 |
| 20 | 天神段 | 曽於郡大崎町野方 | 台地 | 弥生中期 | 2 | | 花弁状 |
| 21 | 上新田 | 薩摩川内市青山町字上新田 | 小丘陵 | 弥生中期 | 2 | | 入来Ⅱ式・全5軒中2軒 |
| 22 | 寺山 | 南九州市川辺町大字永田字寺山野ほか | 台地 | 弥生中期 | 1 | | 山ノ口Ⅰ式（吉ヶ崎）か？ |
| 23 | 吉ヶ崎 | 鹿屋市串良町吉ヶ崎 | 台地 | 弥生中期 | 4 | | 山ノ口Ⅰ式（吉ヶ崎） |
| 24 | 永吉天神段 | 曽於郡大崎町永吉 | 台地 | 弥生中期 | （約30） | | |
| 25 | 郡元団地 | 鹿児島市郡元町 | 微高地 | 弥生中期 | 1 | | 山ノ口Ⅰ式（吉ヶ崎） |
| 26 | 小田 | 霧島市隼人町小田 | 微高地 | 弥生中期後半 | 1 | | |
| 27 | 上野原（1地点） | 霧島市国分川内字鍋迫 | 台地 | 弥生中期後半 | 5 | 4 | 山ノ口Ⅱ式(寺山タイプ)・中溝式 |
| 28 | 上野原（2～7地点） | 霧島市国分川内字田吹・鍋迫・堂ヶ尾・駒迫・十文字 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | 2 | 山ノ口Ⅱ式(寺山タイプ)・黒髪式・須玖Ⅱ式，円形周溝2 |
| 29 | 上野原（10地点） | 霧島市国分上之段字水ヶ迫ほか | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | 山ノ口Ⅱ式 |
| 30 | 成川 | 指宿市山川町字成川 | 扇状地 | 弥生中期後半 | 8 | | 山ノ口Ⅱ式 |
| 31 | 下堀 | 南さつま市金峰町宮崎字下堀 | 台地 | 弥生中期後半 | 9 | | 山ノ口Ⅱ式・黒髪式・須玖Ⅱ式 |
| 32 | 前谷 | 志布志市松山町新橋字前谷 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | |
| 33 | 一の宮 | 鹿児島市郡元 | 沖積台地 | 弥生中期後半 | 4 | | 一の宮式，山ノ口Ⅱ式，炉跡 |
| 34 | 波見西 | 肝属郡肝付町字波見西 | 自然堤防 | 弥生中期後半 | 5 | | |
| 35 | 松木薗 | 南さつま市金峰町尾下字拾石畑 | 台地 | 弥生中期後半 | 3 | | |
| 36 | 前谷B | 志布志市松山町新橋字前谷 | 台地 | 弥生中期後半 | 3 | | |
| 37 | 井出間 | 志布志市松山町井出間 | 台地 | 弥生中期後半 | 2 | | |
| 38 | 高吉B | 志布志市志布志町 | 台地 | 弥生中期後半 | 7 | 5 | |
| 39 | 蓑輪 | 志布志市志布志町内ノ倉字蓑輪 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | 山ノ口Ⅱ式・焼失家屋・軽石製品 |
| 40 | 井手上A | 志布志市有明町字井手上 | 台地 | 弥生中期後半 | 5 | | 方形周溝2・山ノ口式か |
| 41 | 谷添 | 肝属郡根占町横別府字谷添 | 台地 | 弥生中期後半 | 2 | | |
| 42 | 加治木堀 | 曽於郡大崎町野方 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | 円形周溝2基・山ノ口Ⅱ式 |
| 43 | 永吉天神段 | 曽於郡大崎町永吉 | 台地 | 弥生中期後半 | （約16） | | |
| 44 | 沢目 | 曽於郡大崎町益丸字沢目 | 砂丘 | 弥生中期後半 | 48 | | 48軒は弥生～古墳の合計 |
| 45 | 西牟田 | 鹿屋市東串良町川西字西牟田 | 低地 | 弥生中期後半 | 1 | | 山ノ口Ⅱ式 |
| 46 | 飯盛ヶ岡 | 鹿屋市上野町字飯盛ヶ岡 | 台地 | 弥生中期後半 | 7 | | |
| 47 | 前畑 | 鹿屋市郷之原町字前畑 | 台地 | 弥生中期後半 | 3 | 8 | 円形周溝1 |
| 48 | 前畑Ⅱ | 鹿屋市郷之原町字前畑 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | 1 | 焼失家屋 |
| 49 | 中原山野 | 鹿屋市郷之原町字中原山野 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | |
| 50 | 中ノ丸 | 鹿屋市大浦町字中ノ丸 | 台地 | 弥生中期後半 | 3 | 1 | 円形周溝（半円）2 |
| 51 | 中ノ原 | 鹿屋市大浦町字中ノ原 | 台地 | 弥生中期後半 | 2 | | |
| 52 | 中ノ原Ⅳ | 鹿屋市大浦町字中ノ原 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | |
| 53 | 谷平 | 鹿屋市横山町字谷平 | 台地 | 弥生中期後半 | 1 | | 中央に炉を伴う |
| 54 | 中牧 | 鹿屋市川西町字中牧 | 台地 | 弥生中期後半 | 3 | | 山ノ口Ⅱ式 |
| 55 | 王子 | 鹿屋市王子町字王子 | 台地 | 弥生中期後半 | 27 | 14 | |
| 56 | 松崎 | 鹿屋市串良町字上小原字松崎 | 台地 | 弥生中期後半 | 2 | | 山ノ口式・黒髪式 |
| 57 | 石縊・十三塚 | 鹿屋市串良町細山田字石縊・十三塚 | 台地 | 弥生中期後半 | 8 | 3 | |
| 58 | 田原迫ノ上 | 鹿屋市串良町細山田 | 台地 | 弥生中期後半 | 31 | 40 | 円形・方形周溝墓等 |
| 59 | 上新田 | 薩摩川内市青山町字上新田 | 小丘陵 | 弥生中期後半 | 3 | | 黒髪Ⅱ式・須玖Ⅱ式・全5軒中3軒 |
| 60 | 前畑 | 伊佐市菱刈町田中字前畑 | 沖積地 | 弥生中期後半 | 1 | | ボテロ縁甕 |
| 61 | 柴引A | 出水市高尾野町下高尾野字柴引 | 台地 | 弥生後期 | 3 | | 黒髪式 |
| 62 | 山野原 | 南さつま市金峰町尾下字山野原 | 台地 | 弥生後期 | 1 | | 松木薗式 |
| 63 | 諏訪前 | 南さつま市金峰町大野字諏訪前 | 台地 | 弥生後期 | 3 | | 竜の線刻・松木薗式～中津野式 |
| 64 | 横瀬 | 指宿市西方字横瀬 | 台地 | 弥生後期 | 1 | | 変形渦文鏡・松木薗式～中津野式 |

※　永吉天神段遺跡は，県立埋蔵文化財センター業務報告会等での報告基数のため，（　）で表している。

※　上床真氏と徳永愛雄氏集成を一部改変

## ３　鹿児島県下の弥生時代遺跡

鹿児島県の弥生時代集落（竪穴住居跡又は掘立柱建物跡）が報告されている遺跡は，同一遺跡での地点及び時期での重なりはあるが，のべ 61 か所になる（表１）。時期別に見ていくと，中期が全体の 89%を占めており，そのうち中期後半が全体の 35%を占めている（表２）。従来から中期の遺跡が多く，後期になると遺跡数が減少すると指摘があったが，それを裏付ける結果となった。この詳細については，中村直子氏が，南九州の弥生時代～古墳時代の人口を検討する過程において，遺跡数と遺構数の動向を分析しており，居住に関する遺構が検出された遺跡の分布と住居跡数の時期別の変化を検討し，弥生時代から古墳時代にかけて，遺跡数・遺構数が増加していることを明示している。しかし，時期別に見ていくと後期において遺跡数･遺構数が減少することを指摘し，集住化による社会構造の複雑化にその要因を求めている（中村 2006）。

遺跡の立地箇所は，台地が全体の 81%（表 3）で，そのほとんどが台地の縁辺部である。時期別では，遺跡の立地は台地に集中していることがわかる（表４）。発掘調査が概して，台地を調査する場合が多いことも要因と考えられるが，稲作の普及による低地や沖積平野への進出には結びつかない結果となっている。

表2　弥生時代時期別遺跡数

| 時期区分 | 遺跡数 | % |
|---|---|---|
| 前期 | 7 | 7 |
| 中期（前半～後半） | 53 | 54 |
| 中期（後半のみ） | 35 | 35 |
| 後期 | 4 | 4 |

表3　弥生時代遺跡立地箇所

| 地形 | 遺跡数 | % |
|---|---|---|
| 台地 | 52 | 81 |
| 小丘陵 | 3 | 5 |
| 扇状地 | 2 | 3 |
| 微高地 | 2 | 3 |
| 沖積台地 | 1 | 2 |
| 沖積地 | 1 | 2 |
| 自然堤防 | 1 | 2 |
| 砂丘 | 1 | 2 |
| 低地 | 1 | 2 |

※　少数点第一位者四捨五入のため，合計は100にならない。

## ４　分析対象

本稿では，弥生時代中期の竪穴住居跡住居平面構造を中心に分析を行いたい。特に，近年の大規模な発掘調査の増加に伴って，弥生時代の遺構数が増加している大隅半島を対象地域する。

表４　時期別遺跡立地箇所

| 時期 | 地形 | 遺跡数 |
|---|---|---|
| 前半 | 台地 | 6 |
| | 小丘陵 | 1 |
| 中期（前半～後半） | 台地 | 44 |
| | 小丘陵 | 2 |
| | 扇状地 | 2 |
| | 微高地 | 2 |
| | 沖積台地 | 1 |
| | 沖積地 | 1 |
| | 自然堤防 | 1 |
| | 砂丘 | 1 |
| | 低地 | 1 |
| 中期後半 | 台地 | 27 |
| | 小丘陵 | 1 |
| | 扇状地 | 1 |
| | 微高地 | 1 |
| | 沖積台地 | 1 |
| | 沖積地 | 1 |
| | 自然堤防 | 1 |
| | 砂丘 | 1 |
| | 低地 | 1 |
| 後期 | 台地 | 4 |

分析対象遺跡として，鹿屋市９遺跡・大崎町 3 遺跡・志布志市 1 遺跡の計 13 遺跡で検出された 113 基の竪穴住居跡を対象することとした。なお，各遺跡の概要は表５に記載している。

## ５　竪穴住居跡の平面構造の分類方法

平面構造の分類方法は，新保朋久氏の分類方法（新保 2008）を参考に行うこととする。まず竪穴住居跡の平面形を，方形と円形の二種類に分ける。

Ａ：方形　　Ｂ：円形

次に柱穴の配置により，柱穴が中心部にあるもの，竪穴の壁沿・中心部堀込面に並んでいるもの，1 本又は柱穴がないものに分け，さらに張出の有無を加味して細分した。報告書に長軸や短軸･面積等の記載のないものは，以下の観点で報告書内容から表６にまとめた。各住居の長軸・短軸は，報告書掲載図面を参考にしている。面積については，方形は長軸×短軸・円形は径から求めている。柱穴位置は，主柱穴となるうるもの位置と本数をまとめた。主柱穴とならないと判断したものは，その数や位置から除外してある。中心とは，概ね竪穴住居跡の掘込の軸の中心に柱穴あるものを，壁沿は，掘込の壁に柱穴があるものとした（図１）。

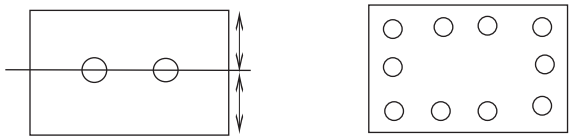


図１　注穴の中心（左）と壁沿（右）

表5　対象遺跡概要

| 遺跡名 | 竪穴住居跡 | 掘立柱建物跡 | 土坑・溝等 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 飯盛ヶ岡<br>（鹿屋市上野町） | 7基 | | | 山ノ口式土器・磨製石鏃 |
| 前畑<br>（鹿屋市郷之原町） | 3基 | 8棟<br>棟持柱付　8棟 | 円形周溝　1基 | 須玖Ⅱ式土器や瀬戸内系の矢羽根透かしの高坏などの移入系の土器 |
| 中原山野<br>（鹿屋市郷之原町） | 1基 | | | スクレイパー・凹石・敲石・土製投弾・台石・砥石・破砕礫 |
| 中ノ丸<br>（鹿屋市大浦町） | 5基 | 1棟 | 円形周溝　2基 | 山ノ口式土器・石剣・勾玉 |
| 中ノ原<br>（鹿屋市大浦町） | 3基 | | | 凹線文土器 |
| 王子<br>（鹿屋市王子町・<br>下祓川町） | 27基 | 14棟<br>棟持柱付　6棟<br>土坑付き　2棟 | 土坑4基<br>溝状遺構2条 | 凹線文のある壺形土器<br>砥石・樹皮布叩石・鉄鏃・鉄製品・土製勾玉等 |
| 十三塚<br>（鹿屋市串良町） | 8基 | 3棟 | 土坑7基 | 砥石・樹皮布叩石・鉄鏃・鉄製品・土製勾玉 |
| 田原迫ノ上<br>（鹿屋市串良町） | 31基 | 40棟<br>棟持柱付　2棟 | 円形周溝・<br>方形周溝12基<br>土坑25基<br>柱列　6列 | 山ノ口式土器・擬凹線文系壺・樹皮布叩石・土製勾玉・土製加工品等 |
| 町田堀<br>（鹿屋市串良町） | 3基 | | | 山ノ口式土器 |
| 加治木堀遺跡<br>（曽於郡大崎町野方） | 1基 | | 円形周溝2基 | 山ノ口式土器 |
| 天神段遺跡<br>（曽於郡大崎町野方） | 2基 | | | 入来式土器・山ノ口式土器 |
| 下堀<br>（曽於郡大崎町<br>岡別府） | 15基 | 5棟<br>土坑付き | 竪穴状遺構13基・<br>土坑3基 | 山ノ口式土器 |
| 高吉B<br>（曽於郡大崎町<br>岡別府） | 7基 | 5棟 | 土坑7基・横穴をもつ土坑1基・石集積1基 | 山ノ口式土器・中溝式土器・須玖式土器・凹線文土器・土製勾玉・樹皮布叩石等 |

Ａ：方形

Ａ１：　方形竪穴の中心に柱が配置されているもの

Ａ２：　方形竪穴で張出をもち竪穴の中心に柱が配置されているもの

Ａ３：　方形竪穴の壁に沿うように柱が配置されているもの

Ａ４：　方形竪穴で張出をもち，壁に沿うように柱が配置されてるもの

Ａ５：　柱が１本又は柱がないもの

Ｂ：円形

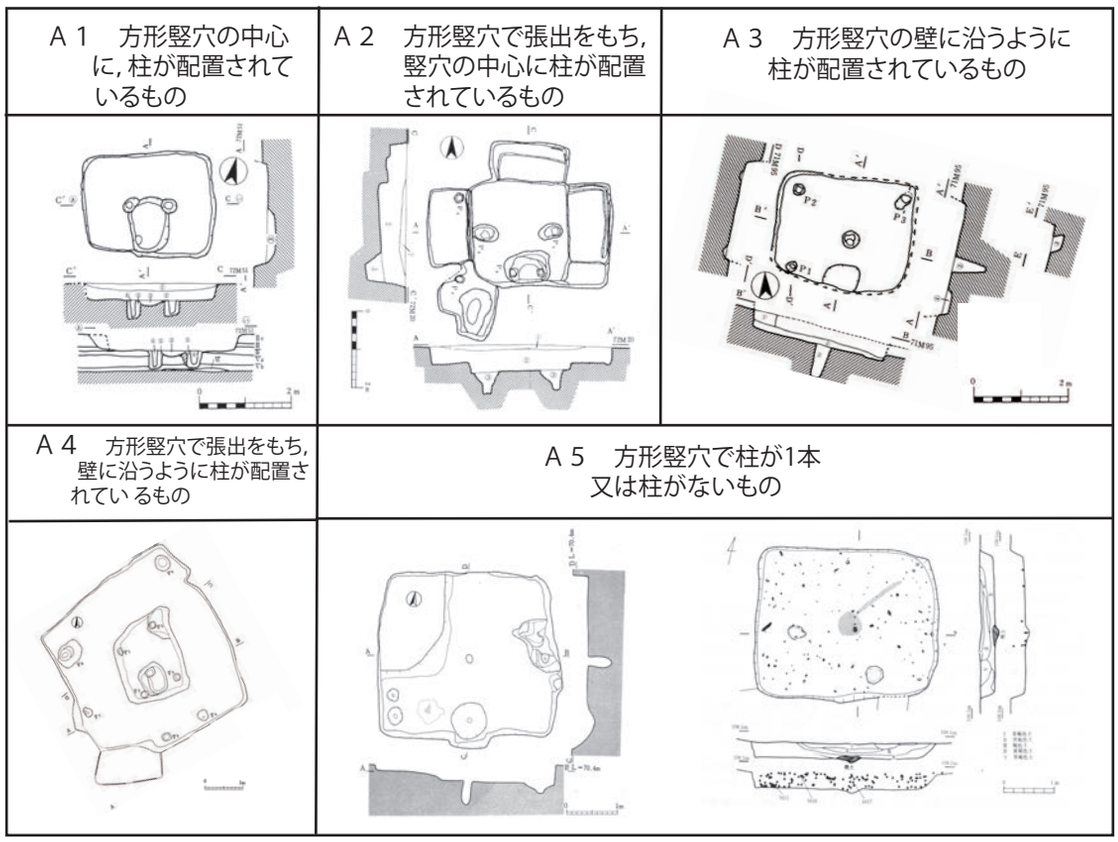
Ｂ１：　円形竪穴で中心に柱が配置されているもの

Ｂ２：　円形竪穴で張出をもち，竪穴の中心に柱が配置されているもの

Ｂ３：　円形竪穴で壁・中心部堀込面に沿うように柱が配置されているもの

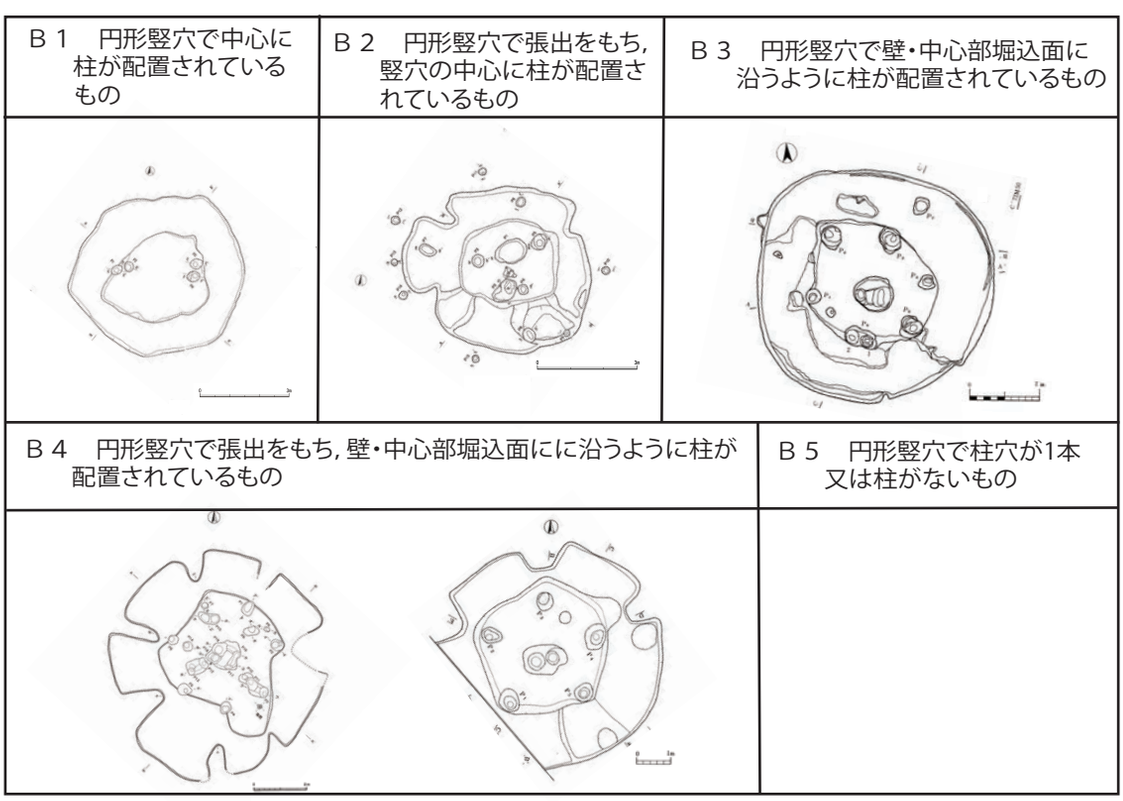
Ｂ４：　円形竪穴で張出をもち，壁・中心部堀込面に沿うように柱が 配置されているもの

Ｂ５：　円形竪穴で柱穴が１本又は柱がないもの




Ａ１：王子遺跡６号住居跡　Ａ２：王子遺跡 10 号住居跡　Ａ３：王子遺跡 20 号住居跡

Ａ４：中ノ原遺跡１号住居跡　Ａ５：（左）前畑遺跡１号住居（右）飯盛ヶ岡遺跡１号住居




Ｂ１：田原迫ノ上遺跡竪穴住居跡６号　Ｂ２：高吉Ｂ遺跡　竪穴住居跡４号

Ｂ３：王子遺跡９号住居跡　Ｂ４：（左）十三塚１号住居（右）中原山野遺跡１号住居

図2　竪穴住居の分類例

さらに，長軸・短軸の長さ，面積，柱穴位置，主柱穴本数，張出方向，ベッド状遺構の有無，壁帯溝，遺構内土坑の位置について集成した。

張出とベッド状遺構は報告書により，その考え方が統一されていない。ここでは，方形や円形の形状から突出（凸）しているもの張出とした。また，ベッド状遺構は，方形や円形の掘込の中に概ね収まるが，中心部より一段高いものをベッド状遺構とした。表６中の西・北なら，西と北にそれぞれベッド状遺構があり，西～北なら，西から北に連続してベッド状遺構があることを表している。なお，張出はベッド状になるものも多数有るが，ここではすべて張出として扱っている。

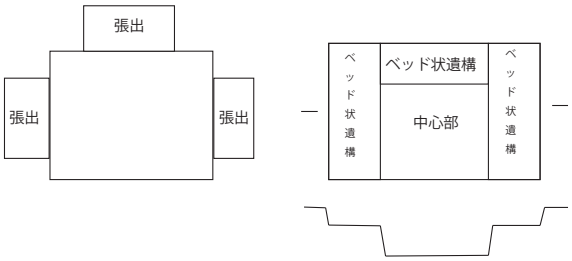



図3 張出（左）とベッド状遺構（右）

竪穴住居跡内の土坑は,掘込内にあるものを対象とし，おおよその位置と（　）には土坑内にある柱穴の数を表している。

これらに従って，分類を遺跡ごとに集成したものが表６－１～４である。

## ６　各遺跡の分類の結果について

### （1）竪穴住居跡の形状について

表７から大隅半島弥生時代中期の竪穴住居跡の形状は，方形約 70%・円形が約 17%・特殊１％・不明 12%である。そのうち,花弁形住居と報告されているものが,方形は１基･円形は11基ある。花弁形住居跡に関しては，中心部掘込の形状は，円形又は楕円形を呈するものの形状は２基のみで，残りは方形を呈する。

### （2）方形の竪穴住居跡について

方形を基調とする竪穴住居跡は，Ａ１・Ａ２のように中心に柱が配置されるものが最も多く50基（約63%）を数える。そのほとんどが，2　本の主柱穴からなるものである。その次に多く検出されるものは，Ａ５で方形を基調とする住居跡の 22 基（約 28%）である。Ａ３（4 基)・Ａ４（2 基）のような壁沿に柱穴が配置されるものは少ない。

面積は張出をもつ分，Ａ２・Ａ４が大きいことが分かる。Ａ５は，面積が一番小さく，柱穴が少ない又はないために，建物自体が小さいのが分かる（表 8-1)。

表 6-1　各遺跡の竪穴住居跡の分類

| 遺跡名 | 号 | 分類 | 平面 | | | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 面積(㎡) | 柱穴位置 | 主柱穴の本数 | 張出の方向 | | | | | | | | ベッドの有無 | 壁帯溝 | 土坑の位置 | | | | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 方形 | 円形 | 花弁 | | | | | | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | | | 中央 | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | |
| 飯盛ヶ岡遺跡 | 1 | A5 | ○ | | | 360 | 295 | 10.6 | 無 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 中央部に焼土域 |
| | 2 | A5 | ○ | | | 310 | 300 | 9.3 | 無 | 0 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 中央土坑焼土 |
| | 3 | A1 | ○ | | | 290 | 260 | 7.5 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 中央土坑焼土 |
| | 4 | A5 | ○ | | | 435 | 330 | 14.4 | 無 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | A2 | ○ | | | 520 | 420 | 21.8 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | ○ | | ○（東側） | | | | | | | △ | | | | 南側階段状掘込<br>報告書では花弁 |
| | 6 | A5 | ○ | | | 295 | 260 | 7.7 | 無 | 0 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 中央土坑焼土 |
| | 7 | A5 | ○ | | | 不明 | 295 | – | 壁沿 | （1） | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | 中央部に焼土域 |
| 前畑遺跡 | 1 | A5 | ○ | | | 360 | 326 | 11.7 | 中心 | 1 | | | | | | | | | ○（北西） | | | | | | | ○ | | | | |
| | 2 | A2 | ○ | | | 460 | 375 | 17.3 | 中心 | 2 | | | ○ | | | | | | ○（北西） | | | | | | | ○ | | | | |
| | 3 | A3 | | | | 460 | 380 | 17.5 | 壁沿 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | ○(2) | | | | 棟持 |
| 中原山野遺跡 | 1 | B4 | | | ○ | 径700 | | 38.5 | 壁沿 | 5 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○(2) | | | | | | | | | 中心部掘込（五角形）<br>中央土坑炉跡 |
| 中ノ丸遺跡 | 1 | A2 | ○ | | | 610 | 545 | 33.2 | 中心 | 2 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | 中央土坑炉跡 |
| | 2 | 不明 | ○ | | | 側辺350 | | – | 不明 | 不明 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 1/4のみ調査 |
| | 3 | B4 | | ○ | | 径680 | | (36.3) | 壁沿 | 5 | | | | | | ○ | ○ | | ○（北側） | | ○ | | | | | | | | | 中心部掘込（五角形）<br>1/2のみ調査 |
| | 4 | 不明 | ○ | | | 側辺350 | | – | 不明 | 不明 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 1/4のみ調査 |
| | H16竪穴 | A2 | ○ | | | 770 | 570 | 43.9 | 中心 | 2 | | | | ○ | | | | | ○（東西北側） | | | | | | ○ | | | | | 中央南側掘込（方形） |

表 6-２

| 遺跡名 | 号 | 分類 | 平面 | | | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 面積(㎡) | 柱穴位置 | 主柱穴の本数 | 張出の方向 | | | | | | | | ベッドの有無 | 壁帯溝 | 土坑の位置 | | | | | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 方形 | 円形 | 花弁 | | | | | | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | | | 中央 | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | |
| 中ノ原遺跡 | 1 | A4 | ○ | | | 500 | 450 | 22.5 | 壁沿 | 4 | | ○ | | | ○ | | | | ○(全周) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 2 | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 大部分が調査区外のため不明 |
| | 3 | B4 | | | ○ | 径450 | | 15.9 | 壁沿 | 4 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| 王子遺跡 | 1 | A1 | ○ | | | 300 | 275 | 8.3 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 棟持？ |
| | 2 | 不明 | | | | (205) | (111) | (2.3) | ー | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 大部分が調査区外のため不明 |
| | 3 | A1 | ○ | | | 350 | 258 | 9.0 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(東西) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 4 | A2 | ○ | | | 475 | 463 | 22.0 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○(東) | | | | | | | ○(1) | | | | |
| | 5 | A2 | ○ | | | 555 | 430 | 23.9 | 中心 | 2 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○(4) | | | | |
| | 6 | A1 | ○ | | | 290 | 228 | 6.6 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | 7 | A1 | ○ | | | 379 | 297 | 11.3 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○(2) | | | | |
| | 8 | A1 | ○ | | | 313 | 310 | 9.7 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○(1) | | | | |
| | 9 | B3 | | ○ | | 748 | 694 | 40.8 | 壁沿 | 6 | | | | | | | | | ○(全周) | | ○(2) | | | | | | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 10 | A2 | ○ | | | 529 | 476 | 25.2 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 11 | A2 | ○ | | | 508 | 497 | 25.2 | 中心 | 2 | | | | ○ | | ○ | | | ○(西・北・東) | ○ | | | | | | ○(1) | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 12 | B4 | | ○ | | 793 | 718 | 45.3 | 壁沿 | 5 | | | | | | ○ | | | ○(全周) | ○ | ○(組込) | | | | | | | | | 主体部堀込(円形？) |
| | 13 | A2 | ○ | | | 440 | 420 | 18.5 | 中心 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○(西～北) | ○ | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 14 | B4 | | | ○ | (670) | (390) | (26.1) | 壁沿 | 6 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○(2) | | | | | | | | | 中心部堀込(円形)<br>1/2のみ調査 |
| | 15 | A2 | ○ | | | 380 | 367 | 13.9 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(西・北) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 16 | A2 | ○ | | | 597 | 520 | 31 | 中心 | 2 | ○ | | | | | ○ | | | ○(北～東) | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 17 | A5 | ○ | | | 310 | 263 | 8 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | 焼土域あり(中央) |
| | 18 | B3 | | ○ | | 676 | 295～550 | (36.3) | 壁沿 | 6 | | | | | | | | | ○(全周？) | | ○(3) | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 19 | A2 | ○ | | | 554 | 405 | 22 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○(1) | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 20 | A3 | ○ | | | 306 | 250 | 8 | 壁沿 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | 21 | 不明 | | | | (500) | (200) | - | 不明 | 不明 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22 | A3 | ○ | | | 308 | 271 | 8 | 壁沿 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 23 | 特殊 | ○ | | | 495 | 471 | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 円形周溝状遺構 |
| | 24 | A2 | ○ | | | 474 | 396 | 19 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 25 | 不明 | ○ | | | (443) | (22～200) | - | 不明 | 不明 | | | | | | | | | ○(西) | | | | | | | ○(2) | | | | |
| | 26 | A2 | ○ | | | 493 | 493 | 24 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(西・東・南西) | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 27 | A2 | ○ | | | 537 | 438 | 24 | 中心 | 2 | ○ | | | | | ○ | | | ○(西・東・北) | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(方形) |
| 十三塚遺跡 | 1 | B4 | | | ○ | 720 | 610 | 64 | 壁沿 | 15 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○(3) | | | | | | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 2 | A1 | ○ | | | 400 | 396 | 16 | 中心 | 4 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(楕円形) |
| | 3 | B4 | | | ○ | 720 | 498 | 39 | 中心 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 中心部堀込(楕円形) |
| | 4 | B4 | | | ○ | 530 | 340 | 18 | 中心 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | B3 | | ○ | | 212 | 188 | 4 | 壁沿 | 6 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 6 | A2 | ○ | | | 570 | 460 | 26 | 中心 | 2 | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○(2) | | | | |
| | 7 | A1 | ○ | | | 358 | 300 | 11 | 中心 | 4 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 8 | A1 | ○ | | | 384 | 320 | 12 | 中心 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 田原迫ノ上遺跡 | 1 | A2 | ○ | | | 459 | 432 | 19 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 2 | A4 | ○ | | ○ | 532 | 470 | 29 | 壁沿 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 3 | A1 | ○ | | | 394 | 360 | 15 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 4 | A1 | ○ | | | 292 | 265 | 7 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 不明 | | | | 360 | 334 | (9.7) | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 攪乱が激しく不明 |

表 6- 3

| 遺跡名 | 号 | 分類 | 平面 | | | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 面積(㎡) | 柱穴位置 | 主柱穴の本数 | 張出の方向 | | | | | | | | ベッドの有無 | 壁帯溝 | 土坑の位置 | | | | | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 方形 | 円形 | 花弁 | | | | | | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | | | 中央 | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 | |
| 田原迫ノ上遺跡 | 6 | B1 | | ○ | | 585 | 560 | 26.1 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(楕円形)<br>建替 |
| | 7 | 不明 | | | | (531) | (350) | − | 不明 | 不明 | | | | | | | | | ○(全周?) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(不明) |
| | 8 | A2 | ○ | | | 427 | 405 | 16.0 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(西・東・南) | | | | | | | ○ | ○ | | | 中心部堀込(凸形) |
| | 9 | A5 | ○ | | | 370 | 321 | 12.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | A2 | ○ | | | 539 | 470 | 21.9 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(西・東) | ○ | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 11 | A2 | ○ | | | 458 | 400 | 16.4 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(北西・北東) | | | | | | | ○ | | | ○ | 南側に段あり |
| | 12 | B3 | | ○ | | 874 | 756 | 50.6 | 壁沿 | 14 | | | | | | | | | ○(全周) | | ○ | | | | | | | | | 南側に4柱穴<br>入口施設? |
| | 13 | A1 | ○ | | | 542 | 530 | 25.4 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| | 14 | A2 | ○ | | | 580 | 516 | 27.4 | 中心 | 2 | | | | | | | ○ | | ○(北～南) | | | | | | | ○ | | | ○ | 中心部堀込(方形) |
| | 15 | A2 | ○ | | | 531 | 490 | 24.4 | 中心 | 3 | ○ | | | | | | | | ○(東～西) | | ○(2) | | | | | | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 16 | 不明 | | ○ | | 632 | (140) | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 大部分が調査区外 |
| | 17 | A2 | ○ | | | 472 | 404 | 17.2 | 中心 | 2 | ○ | | | | | ○ | | | ○(東・西) | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(方形) |
| | 18 | A2 | ○ | | | 430 | 405 | 16.5 | 中心 | 3 | ○ | | | | | | | | ○(東～南) | | | | | | | ○ | | | | |
| | 19 | A1 | ○ | | | 394 | 276 | 12.8 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | 20 | A2 | ○ | | | (298以上) | (218以上) | 不明 | 不明 | (1) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1/2のみ調査 |
| | 21 | B4 | | | ○ | 815 | (530以上) | (33.4) | 壁沿 | (7) | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | ○(4) | | | | | | | | | 1/2のみ調査 |
| | 22 | A2 | ○ | | | 410 | 398 | 15.9 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(西・東・南) | | ○(4) | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 中心部堀込(凸形) |
| | 23 | 不明 | ○ | | | 516 | (98以上) | (3.6) | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | 1/4のみ調査・南側に段あり |
| | 24 | A1 | ○ | | | 690 | 620 | 36.8 | 中心 | 4 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 25 | A2 | ○ | | | 528 | 503 | 22.5 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(不定形) |
| | 26 | A1 | ○ | | | 592 | 558 | 28.5 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(方形)・北東側に段あり |
| | 27 | 不明 | ○ | | | (408) | (120以上) | (4.8) | 不明 | 不明 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1/3のみ調査 |
| | 28 | 不明 | ○ | | | (358) | (207以上) | (6.3) | 不明 | 不明 | | | | | | | | | ○(北) | | | | | | | | | | | 1/2のみ調査 |
| | 29 | 不明 | ○ | | | (419) | (240以上) | (8.7) | 不明 | 不明 | | | | | | | | | ○(北～西) | | | | | | | | | | | 1/2のみ調査・中心部堀込(方形) |
| | 30 | A2 | ○ | | | 485 | 483 | 20.1 | 中心 | 2 | ○ | | | | | | | | ○(東・西) | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(凸形)・南側に段あり |
| | 31 | A1 | ○ | | | 499 | 496 | 22.5 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | ○(2) | | | ○(2) | | | | 中心部堀込(方形) |
| 町田堀遺跡 | 5 | A5 | ○ | | | 370 | 340 | 12.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | 暗紫コラ<br>C14 2135±20BP |
| | 6 | A5 | ○ | | | 290 | 240 | 7.0 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 暗紫コラ<br>C14 2115±20BP |
| | 7 | A2 | ○ | | | 500 | 450 | 22.5 | 中心 | 2 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | ○(3) | | | | |
| 加治木堀遺跡 | 1 | A1→A3 | ○ | | | 600 | 550 | 33.0 | 中心→壁沿 | 2→4 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | | | | | 中心部堀込(方形)<br>堀込(貼床)<br>建替 |
| 天神段遺跡 | 1 | A3 | ○ | | | 270 | 220 | 5.94 | 壁沿 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(方形)(貼床) |
| | 2 | B4 | | | ○ | (310) | (260) | (10.4) | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | 中心部堀込(方形) |

表 6－4

| 遺跡名 | 号 | 分類 | 平面 方形 | 平面 円形 | 平面 花弁 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 面積(㎡) | 柱穴位置 | 主柱穴の本数 | 張出の方向 北 | 張出の方向 北東 | 張出の方向 東 | 張出の方向 南東 | 張出の方向 南 | 張出の方向 南西 | 張出の方向 西 | 張出の方向 北西 | ベッドの有無 | 壁帯溝 | 土坑の位置 中央 | 土坑の位置 北 | 土坑の位置 北東 | 土坑の位置 東 | 土坑の位置 南東 | 土坑の位置 南 | 土坑の位置 南西 | 土坑の位置 西 | 土坑の位置 北西 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下堀遺跡 | 大1 | B4 | | ○ | | | (径922) | 66.7 | 壁沿 | 4 | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 2/5のみ調査 |
| | 大2 | B4 | | | ○ | (径830) | | 13.0 | 壁沿 | 6 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 1/3のみ調査・主体部は円形 |
| | 1 | A5 | ○ | | | 344 | 334 | 11.5 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | A5 | ○ | | | (235) | (230) | (5.4) | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1／2のみ調査 |
| | 3 | A5 | ○ | | | 323 | 280 | 9.0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | A5 | ○ | | | (349) | (153) | (5.3) | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1／2のみ調査 |
| | 5 | A5 | ○ | | | 409 | 332 | 13.6 | | (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | A5 | ○ | | | 423 | 345 | 14.6 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | A5 | ○ | | | (344) | (231) | (7.9) | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1／2のみ調査 |
| | 8 | A5 | ○ | | | (344) | (231) | (7.9) | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1／2のみ調査 |
| | 9 | A5 | ○ | | | 261 | 259 | 6.8 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | A5 | ○ | | | 380 | 323 | 12.3 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 不明 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | A5 | ○ | | | 294 | 285 | 8.4 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | A5 | ○ | | | 283 | 234 | 6.6 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1／2のみ調査 |
| 高吉B遺跡 | 1 | B4 | | | ○ | 740 | 590 | 37.0 | 壁沿 | 7 | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○(東～南) | | ○(3) | | | | | | | | | 中心部掘込(不定形)<br>遺構外側に2基柱穴 |
| | 2 | A2 | ○ | | | 610 | 550 | 29.5 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | 中心部掘込(方形) |
| | 3 | A2 | ○ | | | 330 | 270 | 8.0 | 中心 | 2 | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部掘込(方形)<br>遺構外側に6基柱穴 |
| | 4 | B2 | | | ○ | 580 | 490 | 22.1 | 中心 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部掘込(方形)<br>遺構外側に6基柱穴 |
| | 5 | A1 | ○ | | | 550 | 480 | 24.4 | 中心 | 2 | | | | | | | | | ○(全周) | | | | | | | ○(2) | | | | 中心部掘込(方形)<br>遺構壁沿い6本柱穴 |
| | 6 | A1 | ○ | | | 280 | 200 | 4.1 | 中心 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 7 | A2 | ○ | | | 600 | 570 | 18.9 | 中心 | 2 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○(2) | | | | |

次に張出と遺構内土坑について結果は，表８－ ２・ ３のとおりである。複数持つ場合はのべでカウントしてある。

張出をもつ住居Ａ２・Ａ４の 21 基（約 62%）が北側に見られることが分かる（表８－２）。

住居内土坑は，方形竪穴住居跡の半数の 41 基（約 52%）で南側に検出されている（表８－３）。そのうち，17 基（約 41%）の住居内土坑に柱穴が伴い，柱穴が２つのものが多い。

壁帯溝については少ない（表８－４）。

ベッド状遺構は，張出と関係あるためか，Ａ２の住居跡に多く見られる傾向がある（表８－５）。ベッド状遺構も，張出と同じく南側に検出されるものは，全体として少ない。

(3) 円形の竪穴住居跡について

円形を基調とする竪穴住居跡は，Ｂ３・Ｂ４のように壁沿に柱が配置されるものが，19 基中 17 基（約 89%）を占めている。また，Ｂ４の張出をもつものが 13 基あり全体の約 68%占めている。そのうち，10 基は花弁形住居であり，全体の約 53%，張出を持つものの約 77%を占めることとなる。柱穴数は，５～ 15 本とバラツキがあるが５～７本のものが多い。

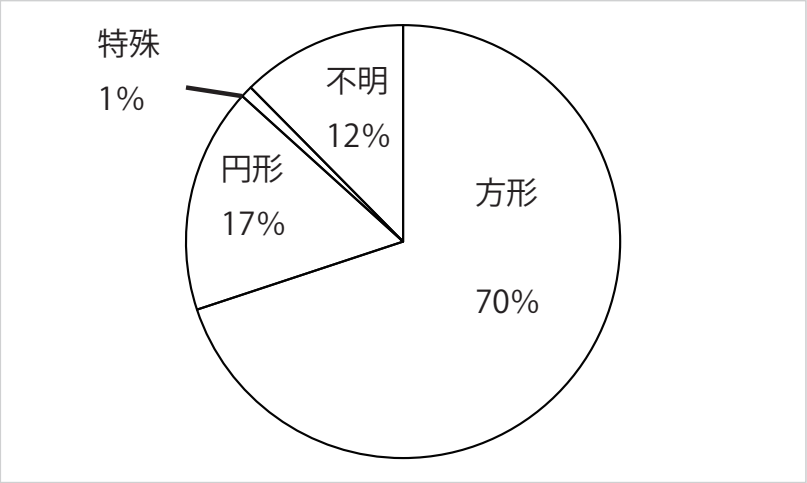
面積は，平均面積 29.4 ㎡で方形の平均面積 19.4 ㎡を大きく上回っている。円形の主体を占めるＢ３・Ｂ４だけの平均面積は，約 34.7 ㎡でさらに大型になる（表９－１）。柱数が多いと大型化することが分かる。

次に張出と住居内土坑について，張出をもつ住居Ｂ２・Ｂ４は，花弁形住居が多数を占めるため，概ねどの方向にも張出をもつ傾向がある（表９－２）。土坑については，円形竪穴住居跡の 11 基（約 58%）で中央に検出されている（表９－３）。そのうち，６基（約 55%）に柱穴が伴い２～４本が多い。

壁帯溝の検出例は３基のみである（表９－４）。ベッド状遺構については，Ｂ３の４基すべてに見られ，Ｂ４の３基にも見られる（表９－５）。円形竪穴住居跡は，基本的に張出又はベッド状遺構が伴うことが分かる。また，花弁形竪穴住居跡のみを見ると，中心部の掘込は方形又は不定形を呈するものが多い。

表7　大隅半島弥生時代中期の竪穴住居跡の分類結果

| | 方形 | 円形 | 特殊 | 不明 |
|---|---|---|---|---|
| 基数 | 79 | 19 | 1 | 14 |
| そうちの花弁形数 | （1） | （11） | ― | ― |




| 分類 | 基数 |
|---|---|
| A1 | 18 |
| A2 | 32 |
| A3 | 4 |
| A4 | 2 |
| A5 | 22 |
| B1 | 1 |
| B2 | 1 |
| B3 | 4 |
| B4 | 13 |
| B5 | 0 |
| A1→A3 | 1 |
| 特殊 | 1 |
| 不明 | 14 |
| 合計 | 113 |

表8－１　方形住居跡平均面積

| 平均面積（㎡） | |
|---|---|
| A1 | 14.9 |
| A2 | 22.2 |
| A3 | 9.9 |
| A4 | 25.9 |
| A5 | 10.4 |
| A1→A3 | 33.0 |
| 平均面積（㎡） | 19.4 |

表8－３　方形住居跡内の土坑位置

| | 土坑の位置 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中央 | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 |
| A1（全18基中） | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 |
| A2（全32基中） | 4 | 2 | 0 | 1 | 2 | 25 | 1 | 1 | 2 |
| A3（全4基中） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| A4（全2基中） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A5（全22基） | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| A1→A3（全1基中） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 9 | 3 | 1 | 2 | 2 | 41 | 1 | 1 | 2 |
| 土坑内に柱穴がある数 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 17 | 0 | 0 | 0 |

表8－４　方形住居跡壁帯溝検出数

| 壁帯溝の有無 | |
|---|---|
| A1（全18基中） | 0 |
| A2（全32基中） | 4 |
| A3（全4基中） | 0 |
| A4（全2基中） | 1 |
| A5（全22基中） | 1 |
| A1→A3（全1基中） | 0 |
| 合計 | 6 |

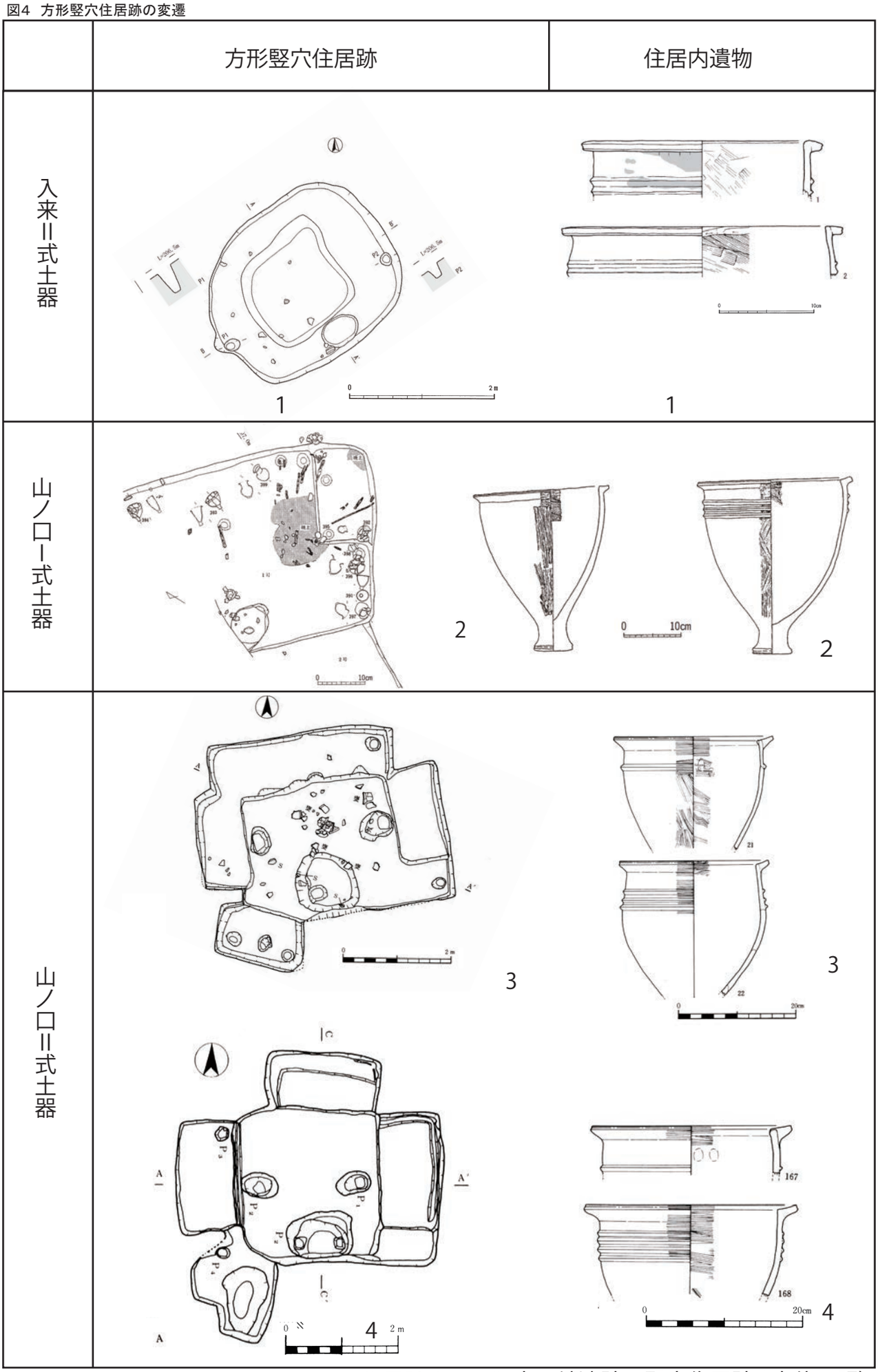
表8－２　方形住居跡の張出方向

| 張出方向 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 |
| A2（全32基中） | 20 | 2 | 7 | 7 | 2 | 10 | 8 | 4 |
| A4（全2基中） | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 21 | 3 | 8 | 7 | 4 | 10 | 9 | 4 |

表8－５　方形住居跡ベッド状遺構検出数

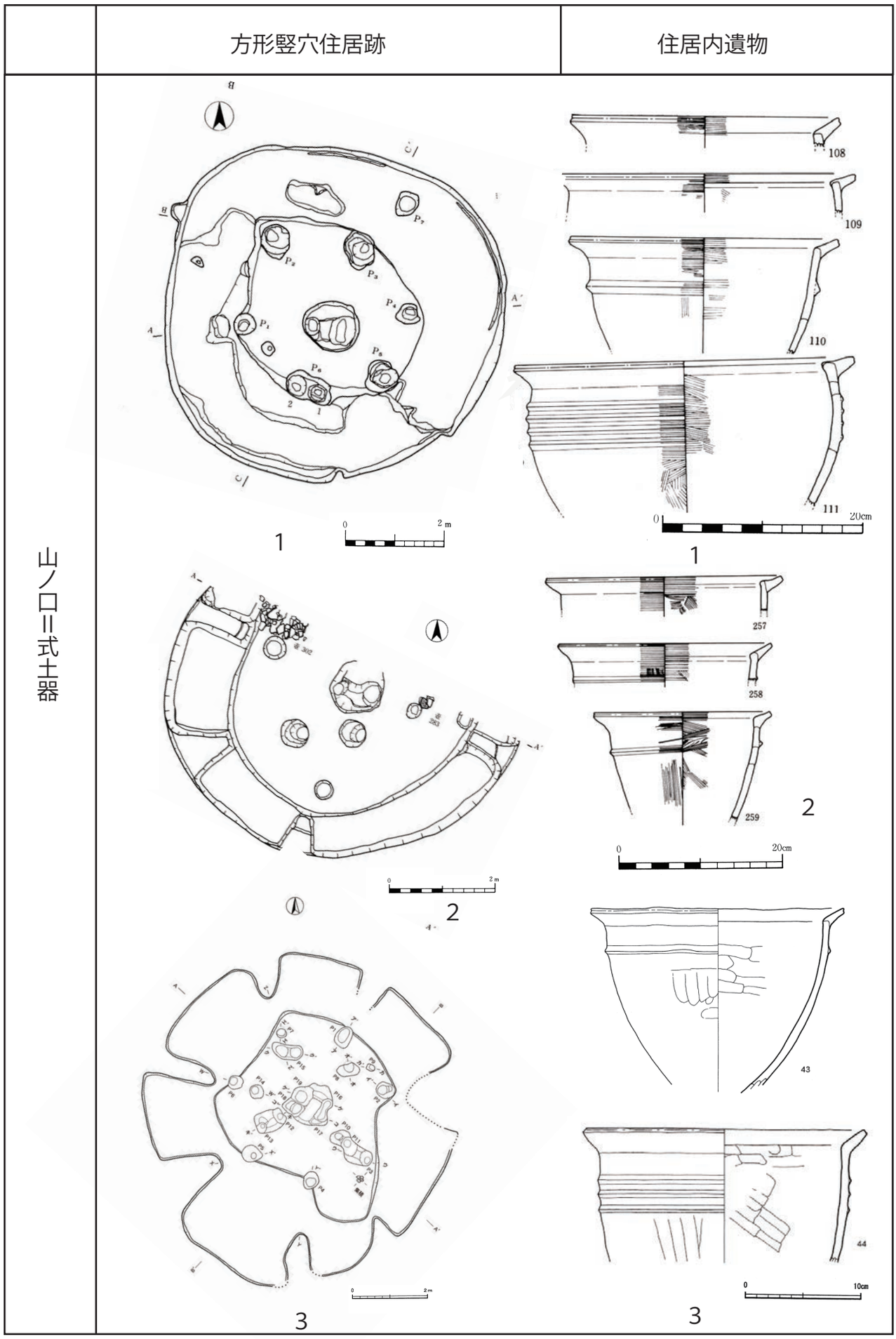
| ベッド状遺構の有無 | |
|---|---|
| A1（全18基中） | 6基 |
| A2（全32基中） | 19基 |
| A3（全4基中） | 0基 |
| A4（全2基中） | 1基 |
| A5（全22基中） | 1基 |
| A1→A3（全1基中） | 1基 |
| 合計 | 28基 |

図4　方形竪穴住居跡の変遷




1：天神段遺跡　弥生時代の竪穴住居跡１号　2: 吉ヶ崎遺跡　竪穴住居跡 ( 方位不明)
3：王子遺跡　４号住居　　4：王子遺跡　10 号住居　　※　縮尺不同

図5　円形竪穴住居跡の変遷




1：王子遺跡　9号住居

2：王子遺跡　4号住居

3：十三塚遺跡　1号竪穴住居跡

※　縮尺不同

## ７　考察

### （1）方形竪穴住居跡について

弥生時代中期の竪穴住居跡は,方形が主体を占める(約70％)。主柱穴は２本で，竪穴住居跡の中心に配置されているものが多数である。ベッド状遺構や張出も含めると方形竪穴住居跡は，以下の３点の平面構造が基本となる。

１点目は，Ａ１とした竪穴住居跡で，中央部が一段低く掘り込まれ，中心にに２本の柱穴・ベッド状遺構と南側に土坑が付帯する。

２点目は,Ａ２とした竪穴で,中央に２本の柱穴･北側･東側・西側に張出が付き，南側に土坑が付帯する。土坑には２本の柱穴が伴うことが多い。なお，張出は北側に付く場合が多い。概ね北側と東西張出・南側に土坑が付帯するのが，Ａ２の基本構造となる。

３点目は，Ａ５とした竪穴住居跡で，柱穴が伴わない又は中心に１本の場合の住居である。面積が 10 ㎡以下になる場合が多く，張出や土坑を伴うことはない。上屋構造等を考えると，柱が少なく住居に耐えうる上屋を構築するのは難しいと考えられ，簡易な上屋構造の倉庫等の機能を有していた可能性が高いと判断する。

Ａ１・Ａ２の形状の方形竪穴住居跡では，遺構南側に土坑が多いが，この機能について推察したい。報告書の中には，貯蔵穴と記載が見られるものもある。竪穴住居内の土坑は，貯蔵穴であれば南側だけに集中する理由がない。また，弥生時代中期は，貯蔵に適した甕や壺などの器種が多様化し,木製品等も豊富にあったと考える。さらに食物を貯蔵する際は，日の当たりにくく，家の中で冷温になる場所を選んでいると考えられ，日当たりの良い南側は適していない。

このような考えから，竪穴住居内の南側の土坑は，貯蔵穴ではなく，土坑内に主柱穴より一回り小さい２本の柱穴があることから，出入り口などの施設の痕跡と推定している。そのため，Ａ１・Ａ２の竪穴住居跡では，南側に出入り口等のために土坑を設け，張出やベッド状遺構を構築しなかったと考えられる。

### （2）円形の竪穴住居跡について

弥生時代中期の円形竪穴住居跡は，Ｂ３･４のように，壁沿又は中心部掘込部に５～７本の柱穴が配置されるものが基本形状である。さらに，中央に２本の柱穴が伴う土坑がある場合が多い。中央土坑は，上屋構造を支えるもので，土坑内の２本柱穴は２本柱構造が想定される。

### （3）張出・ベッド状遺構の出現期について

張出及びベッド状遺構の出現時期について考察したい。方形竪穴住居は，入来Ⅱ式土器が出土している天神段遺跡竪穴住居跡　１　号（Ａ３）で，ベッド状遺構が伴う

表9－１　円形住居跡平均面積

| 平均面積(㎡) | |
|---|---|
| B1 | 26.1 |
| B2 | 22.1 |
| B3 | 31.8 |
| B4 | 37.5 |
| B5 | ― |
| 平均面積(㎡) | 29.4 |

表9－２　円形住居跡の張出方向

| | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B2(全1基中) | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| B4(全13基中) | 7 | 6 | 6 | 5 | 5 | 7 | 8 | 5 |
| 合計 | 8 | 6 | 7 | 5 | 6 | 8 | 8 | 5 |

表9－３　円形住居跡内の土坑位置

| | 土坑の位置 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中央 | 北 | 北東 | 東 | 南東 | 南 | 南西 | 西 | 北西 |
| B1(全1基中) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B2(全1基中) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| B3(全4基中) | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| B4(全13基中) | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| B5 | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| 合計 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| 土坑内に柱穴がある数 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |

表9－４　円形住居跡壁帯溝検出数

| 壁帯溝の有無 | |
|---|---|
| B1(全1基中) | 0 |
| B2(全1基中) | 0 |
| B3(全4基中) | 0 |
| B4(全13基中) | 3 |
| B5 | ― |
| 合計 | 3 |

表9－５　円形住居跡ベッド状遺構検出数

| ベッド状遺構の有無 | |
|---|---|
| B1(全1基中) | 1基 |
| B2(全1基中) | 0基 |
| B3(全4基中) | 4基 |
| B4(全13基中) | 3基 |
| B5 | － |
| 合計 | 8 |

住居が報告されている。概要報告のため詳細が不明で，集成には反映しなかったが，鹿屋市串良町の吉ヶ崎遺跡で，山ノロⅠ式土器と考えられる土器が出土している竪穴住居跡が検出されている。図面だけで見るとＡ３のようだが,右上に一段高いベッド状遺構を有する。その後，王子遺跡にて，Ａ２としている張出をもつ住居が報告され，山ノロⅡ式土器が遺構内から出土している。これらから，少なくともベッド状遺構は入来Ⅱ式（中期中葉）の時期から，張出は山ノロⅡ式土器（中期後葉）の時期から出現し，Ａ１・３→Ａ２・４のような変遷を想定したい。ただし，張出あるものとないものが同時にあり，様々なタイプ平面構造をもつ住居が現れると考えられる。

円形竪穴住居跡は，山ノロⅡ式土器の時期しか確認できなかったが，図５のように，王子遺跡 9 号住居（Ｂ３）の中心部の掘込と一段高いベッド状遺構があるのものから，王子遺跡４号住居のベッド状遺構が間仕切りにより仕切られるものへ，その後，十三塚遺跡１号竪穴住居跡の円形を基調とした花弁形竪穴住居へと変遷したと推測される。

（4）その他

弥生時代中期の竪穴住居跡の建替の報告はほとんどない。明確に建替を報告しているものは，加治木堀遺跡１基のみであった。方形竪穴住居跡で，Ａ１の中心の 2 本柱穴から，Ａ３の壁沿に柱穴を配置するものへの建替である。弥生時代中期の竪穴住居跡では，建替は希な事例と考える。その要因としては，当該時期の集落が中期前葉・中葉から継続するものや後期へ継続するものが少なく，短期間に集落が消えていくためであろう。

円形竪穴住居跡と方形竪穴住居跡の違いについては，出土土器から時期差はない。機能差を想定されるが，今回の集成等からは，詳細は不明である。住居内出土遺物の構成や集落内での割合や遺構配置等から，その機能差を見いだす研究が必要であろう。今後の研究課題としたい。

## ７　あとがき

今後，弥生時代中期の遺跡調査数が増加すると考えられる。その際に本稿が，調査の目安・一助になれば幸いである。

本稿をまとめるにあたり，指導・助言頂いた岩永勇亮氏，実務向上研修で指導頂いた黒川忠広氏，その他，上床真氏・隈元俊一氏・徳永愛雄氏・山形敏行氏にご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

**【引用・参考文献】**

河口貞徳　1981 「新南九州弥生土器集成」『鹿児島考古』第 15 号　鹿児島県考古学会
新東晃一　1989 「弥生時代竪穴住居の復元」『鹿児島考古』第 23 号　鹿児島県考古学会
堂込秀人　1995 「南西諸島における竪穴住居跡－縄文時代晩期から弥生時代相当期の変遷－」『古代文化』第 47 巻第１号　古代学協会
中園聡　1997 「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第９号　人類史研究会
中摩浩太郎　1998 「南部九州弥生時代竪穴住居の分類」『人類史研究』10　人類史研究会
中村直子　1997 「薩摩半島東部における弥生時代後期土器の検討」『鹿児島考古』第 31 号　鹿児島県考古学会
鹿児島県教育員会　2005「先史･古代の鹿児島　資料編」
中村直子　2006 「居住からみた南九州弥生・古墳時代の人口変動」『Archaeology from the South 鹿児島考古学研究室 25 周年記念論集』鹿児島大学考古学研究室 25 周年記念論集刊行会
新保 朋久　2008 「鹿屋地方弥生時代中期における竪穴住居跡の構造分類 ～十三塚を主体とした近隣遺跡との比較～」（センター研修資料）
西谷彰　2015 「鹿児島県における弥生時代住居研究の現状と課題」『鹿児島考古』第 45 号　鹿児島県考古学会
本田道輝　1993 「鹿児島県下の弥生後期土器」『鹿児島考古』第 27 号　鹿児島県考古学会
宮本長二郎　1985 「九州地方の弥生時代住居」『王子遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（34）
湯場﨑辰巳　2014 「永吉天神段遺跡」『遺跡フォーラム 2014 発表資料』 鹿児島県立埋蔵文化財センター
湯場﨑辰巳　2017 「永吉天神段遺跡概要報告」 鹿児島県考古学会研究発表資料要旨集

鹿児島県立埋蔵文化財センター
研究紀要・年報 縄文の森から 第10号

発行年月　２０１８年3月
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL　0995-48-5811
E-mail　maibun@jomon-no-mori.jp
URL　http://www.jomon-no-mori.jp
印　　刷　有限会社　国分新生社印刷
〒899-4301　鹿児島県霧島市国分重久627-1